

■ スズカケソウ

Veronicastrum villosulum

(平成19年9月7日指定)

徳島県における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類
環境省における指定状況：絶滅危惧ⅠA類
その他の指定：つるぎ町天然記念物



スズカケソウ

種の概略

1) 特徴

ゴマノハグサ科の多年草で、茎はつる状に長く伸びて1 m以上になり、さかんに分枝し、その先から根を下ろして増える。葉には短い柄があり、長い卵形で、先がとがり縁にはぎざぎざがあり、ピロード状の毛が密生する。7～8月ごろに濃い紫色の小さな花を球状に付ける。花が山伏の付ける鈴掛に似ているのでその名が付いた。

2) 生育環境

やや暗い川沿いの斜面に生育する。岐阜県では竹林に生育しているという。

3) 繁殖特性

種子でも増えるが、茎の先が地面についてそこから根が出て株別れして増えるクローン繁殖も行う。栽培は比較的容易で、挿し木で増やすことができる。

4) 分布

日本および中国。国内では岐阜県、鳥取県、徳島県に分布する。他県のもは生育状況から栽培のものが逸出した可能性があり、県内ではつるぎ町の1カ所のみで生育している。そこでは河川のそばの斜面に生育しており、自生の可能性が高いといわれている。

生育地と生育状況

生育地：徳島県つるぎ町

徳島県内での生育状況は1カ所のみで、生育環境は河川のそばのやや暗い斜面である。生育地ではさかんに株別れしたものが見られるほか、種子で増えたと推測される個体がやや離れた場所でも見られる。町の天然記念物として指定されているために、金網で囲われて保護され



繁殖特性

ているが、洪水時に水をかぶる場所であるので、大水の際に金網とともに流されて株がダメージを受けることがある。

絶滅要因

1) 洪水

生育地が河川沿いにあるために洪水の際に生育地が流失したり、株が流され、傷つけられている。

2) 過剰な採取

江戸時代は観賞用として栽培されており、栽培も容易であるので、採取される場合がある。

保全対策

1) 個体数の確保

流域に他の生育地がないか調査を重ね、できるだけ多くの個体を確保する。

2) 遺伝子汚染の防止

他地域のもの、あるいは栽培されていて由来のわからない個体を近くに植えるべきでない。

3) 採取の防止

珍しい植物であり、古くから栽培されている植物でもあるので採取の危険がある。生育地を柵で囲って採取できないようにすることを継続する。

4) 洪水での消失への備え

数年前に起こった洪水による氾濫によって柵が流されスズカケソウは大きなダメージを受けた。そうした増水の影響がないところで栽培し、生育地および生育個体の回復ができる備えをしておく。なお、増殖方法については遺伝的な解析により、種子繁殖かクローン繁殖(挿し木または株分け)かを検討する必要がある。

5) モニタリングの継続による生育環境の確保

日陰にも生育するのである程度暗い環境でも良いが、他種が直接覆ってしまう場合は、刈り取り等を行い取り除いてやる必要がある。定期的なモニタリングをしながら、生育状態を確認するべきである。(小川誠)